

# 親子関係と夫婦関係： 家族内サブシステムの関連について

数井みゆき

(日本学術振興会・お茶の水女子大学)

**問題と目的** 家族をシステムと考えれば、そこでは親子というサブシステムも、親同士つまり夫婦というサブシステムも存在し、その関係が互いに影響を与えている。今まで、夫婦関係は子どもの発達という分脈であまり扱われてこなかったが、最近ではその重要性が問われている。そこで、本研究は3歳児を中心とする子どもを持つ両親へ、子どもとの関係、夫婦としての関係、そして、親として自分をどのように認識しているのかを調べることを目的とする。

**方法 協力者** 関東を中心に在住する3歳児をもつ夫婦155組の協力を得た。母親の平均年齢は32歳、父親の平均年齢は35歳であった。

**手続き** 質問紙を郵送して返送してもらう形式をとった。質問紙では、①夫婦関係の満足度をたずねるthe Marital-Dyadic Adjustment Scale (MDAS)を使用した。得点の高さは夫婦関係での適合や満足度が高いことを示す。②親として子どもを持って以来どのような心理的状态にあるかをたずねる親機能状態評定を関西学院Parenting Stress Index (野澤, 1989) から抜粋して使用した。得点の高さは、親としての否定感やストレスが高い状態を示す。③親子関係をどのように認識しているかについて、the Attachment Q-set (Waters & Deane, 1985) をもとに、親子愛着尺度を作成した。得点の高さは、子どもの愛着が安定的に発達していることを示す。

**結果と考察** 表1より、まず母親内変数の相関を見てみると、夫婦関係の満足度が高い母親は、親としての機能状態が良好であった。つまり、夫との関係が良好であると感じている母親は、親としての肯定感も高い。

次に父親内変数を見てみると、親としての機能状態が良好である父親は、子どもの愛着が安定的に発達しているのとらえていた。親としての自信が、子どもとの関係性を良好にしているのかもしれない。

夫婦間での関連性をみると、夫婦関係の満足度が高いと認識している母親または父親は、その配偶者も同様に満足度が高かった。幸せであるカップルは相互にそのような思いを抱いているらしい。また、父親の親としての状態の良好さが、母子間の愛着関係の安定性と関連していた。父親が「親」の部分でどのように自分を位置づけているかが、自分だけではなく母親と子どもの関係へも影響を与えているらしい。

さらに、父親の報告した子どもの愛着関係の安定性の高さは、母親の報告した子どもの愛着安定性の高さと同様に関連しており、子どもの発達への認識が夫婦で一致していることを示した。

この質問形式から、母親の変数と子どもの愛着状態が全く関連しておらず、むしろ母子関係が父親のあり方と関連していたことは、家族内サブシステムの複雑さを示したのではないかと考える。

表1 父親と母親の質問紙の相関

	母 親			父 親	
	夫婦関係	親機能状態	親子愛着	夫婦関係	親機能状態
母 親機能状態	-.27***				
親 親子愛着	.01	.08			
父 夫婦関係	.50***	-.12	.03		
親機能状態	-.01	.14	-.20*	-.15	
親 親子愛着	.00	-.02	.30**	.11	-.33***

\*:p&lt;.05; \*\*:p&lt;.005; \*\*\*:p&lt;.001